ISSN 2185-9817

自然遊学館だより

2018 WINTER

No.86

チゴガニ

2017 年 11 月 3 日、近木川汽水ワンドでは初めて確認されました．甲羅の幅は 1 ㎝ほどの小さなカニで、泥っぽい干潟に生息します．大阪では希少種ですが、秋の台風の影響で汽水ワンドの干潟につもった多くの泥とともにやってきたようです．

2018.2.5 発行 貝塚市立自然遊学館

目　次

＊ネイチャーリポート

貝塚市脇浜の住宅地跡で見つけた貝殻Ⅱ

……西出康介・山田浩二…1

近木川河口のヒメカノコ

……山田浩二・和田太一…3

キノコの記録(2017 年) …… 岩崎拓… 4

＊行事レポート

海藻おしば＆ウミホタル…… 山田浩二… 8

虫と星の観察会 …… 澤田智子… 9

親子海釣り体験 in 岡田浦 …… 山田浩二… 10

＊館長コーナー

海の学びミュージアムサポート事業

平成 29 年度報告 3 …… 高橋寛幸… 11

＊いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの 13 … 鈴子勝也… 15

＊調査速報

貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査 7

……鈴子勝也… 16

＊実習生コーナー …… 17

＊寄贈標本 …… 18

＊スタッフ日誌 …… 21

ネイチャーリポート

貝塚市脇浜の住宅地跡で見つけた貝殻 Ⅱ

貝塚市脇浜にかつてあった漁港の近辺に建つ民家の取り壊し跡地で、2017 年 3 月に見つけた多くの貝殻について本誌の№83 で紹介させて頂きました。その後も継続して 2017 年 3 月から 11 月まで毎月のように貝殻を採集しましたので、まとめた結果を報告します。ただ、調査期間の前半は多くの貝殻を見つけることができましたが、後半はあまり見つけることができませんでした。たて 15.2m、よこ 11.7m で面積約 178 ㎡の限られた場所なので、深く埋まった貝殻を除いてほとんど採り尽くしたのではと思います。

右の表に 2017 年 3 月から 11 月にかけて脇浜住宅跡地で拾い集めた貝殻の種類、個数をまとめました。ただ、二枚貝は対の殻がばらばらになって見つかったので、殻の 1 枚を 1 個としてカウントしました。結果、腹足綱（巻貝類）は 19 種 89 個で、シドロガイ（図 2）、アカニシ（図 3）、バイ（図 4）が多く採れた上位 3 種でした。二枚貝綱は 16 種 213 個で、サルボウガイ（図 5）、イタボガキ（図 6）、ヤマトシジミが多く採れた上位 3 種でした。

脇浜住宅跡地で拾い集めた貝殻リスト　2017年3月～11月

	グループ	和 名	個数
腹足綱	ユキノカサガイ科	ヒメコザラ(ツボミガイ型)	1
	ミミガイ科	トコブシ	1
	ニシキウズガイ科	イシダタミ	1
		ニシキウズガイ科の一種	2
	ソデボラ科	シドロガイ	21
	タマガイ科	ツメタガイ	5
	オキニシ科	ミヤコボラ	1
	アッキガイ科	カゴメガイ	1
		アカニシ	15
	エゾバイ科	バイ	12
	テングニシ科	テングニシ	7
	イトマキボラ科	イトマキボラ	1
		ナガニシ	10
	タニシ科	ヒメタニシ	1
		マルタニシ	1
		オオタニシ	3
	カワニナ科	カワニナ	3
	オカクチキレガイ科	ホソオカチョウジガイ?	2
	オナジマイマイ科	カタツムリ類の一種	1
ニ枚貝綱	フネガイ科	サルボウガイ	74
	タマキガイ科	タマキガイ科の一種	14
	イタヤガイ科	イタヤガイ	12
	ネズミノテ科	ネズミノテ	3
	イタボガキ科	イタボガキ	68
		マガキ	2
	ハナシガイ科	ハナシガイ科の一種	1
	モシオガイ科	スダレモシオ	3
	ザルガイ科	トリガイ	1
	マルスダレガイ科	オニアサリ	1
		アサリ	10
		ウチムラサキ	2
	クチベニガイ科	クチベニデ	1
		イナカクチベニ	1
	シジミ科	ヤマトシジミ	19
		セタシジミ	1
		計	302

図 1. 脇浜の住宅跡地での筆者：西出康介 2017 年 3 月 29 日

図 2. シドロガイ（脇浜住宅地跡）

図 3. アカニシ（脇浜住宅地跡）

図 4. バイ（脇浜住宅地跡）

図 5. サルボウガイ（脇浜住宅地跡）

図 6. イタボガキ（脇浜住宅地跡）

見つかった貝殻の中で、イトマキボラ（図 7）は大阪湾では生息していないそうですが、どうして 1 個出てきたのかは不思議です。総じて、海底の砂泥底にすむ貝が多く、漁船による底引き網で漁獲された貝がこの場所に埋まっていたと考えられます。かつて漁業が営まれていたことを物語る漁網の素焼きの重り（図 8）などの漁具も多く拾いました。実際、私、西出の家系も代々、脇浜で漁業を営んでいたことを祖父母から聞いています。

図 7. イトマキボラ（脇浜住宅地跡）

図 8. 素焼きの重り（脇浜住宅地跡）

謝辞

多数のよくわからない貝殻の種類を教えて頂いた児嶋格先生にお礼を申し上げます。

（西出 康介（貝塚市立第五中学校 2 年生）
・山田 浩二）

近木川河口のヒメカノコ

ヒメカノコ *Clithon* aff.*oualaniensis* はアマオブネガイ科に属する殻高が1cmほどの球形に近い巻き貝で、殻表は滑らかで強い光沢があります。大小の白い三角形の模様が並ぶのが特徴ですが、個体によって模様の変異も多いです。南西諸島以外では生息域は比較的限られていて、紀伊半島以南の外洋に面した河川に生息地が散在します（鈴木ほか、2013)。環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種に選定されています。近木川の河口では干潟再生地（汽水ワンド）で、2013年秋から出現が確認されていましたが（山田ほか、2016)、今回、海に面した干潟においての生息を初確認しましたので報告します。

2017年8月21日、いずみ市民生協主催の河口の生きもの観察会に同行した際に本種と思われる生貝を複数個体見つけ（図1)、同年8月26日の海岸生物調査時に採集を行いました。生息場所は主に干潟の転石で、同じアマオブネガイ科のイシマキガイ *Clithon retropictus* とともに多くの個体が生息しており、干出した干潟上を這い回る姿も観察されました（図2)。

この海に面した近木川河口の干潟では2011年10月にハナガスミカノコ *Clithon chlorostoma*（アマオブネガイ科）の確認や（和田・山田、2012)、2016年春からはウミニナ *Batillaria multiformis*（ウミニナ科)の急激な増加がみられるようになったことに代表されるように底生生物相の経年的な変化が感じられます。

図1. ヒメカノコ
近木川河口 2017年8月21日

図1. 干潟上を這うヒメカノコ
近木川河口 2017年8月26日

引用文献

鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森敬介・多留聖典（2013)「干潟ベントスフィールド図鑑」. 257pp. 日本国際湿地保全連合.

和田太一・山田浩二（2012）近木川河口で見つかったハナガスミカノコ. 自然遊学館だより. No. 63：7-9.

山田浩二・岩崎 拓・大畠麻里・児嶋 格・寺田拓真・和田太一（2016） 近木川干潟再生地の経過観察（2013年度） 貝塚の自然 第17号：1-27.

（山田 浩二・和田 太一（NPO法人南港ウェットランドグループ))

キノコの記録（2017 年）

2017 年に貝塚市で出会った印象深いキノコ類を紹介します。と言っても、採集したキノコを持って帰って図鑑で調べても、自分が分かるものはごく限られています。特徴のないものは、取らずにやり過ごし、持ち帰ったものでも分からない時はすぐに諦めることにしています。

まず春からです。和泉葛城山で時々お目にかかる吉田元三郎さんに山頂付近で会い、「ブナの殻斗に生えるブナノホソツクシタケが出ていた」と教えてもらいました。その 5 月 11 日に見た時は白い小さな幼菌のようでした（図 1）。5 月 18 日と 23 日にも確認できました。5 月 11 日に採集したものを、館に持ち帰って置いておくと、子実体が伸びて、図 2 のようになりました。5 月 18 日と 23 日には、同じく落ちたブナの殻斗から生えるブナノシロヒナノチャワンタケも確認しました（本誌 64 号参照）。

図 1. ブナノホソツクシタケ
（和泉葛城山山頂付近、2017 年 5 月 11 日）
***Xylaria carpophila*　クロサイワイタケ科**

図 2. ブナノホソツクシタケ
（2017 年 6 月 4 日撮影、方形枠は 2cm）

夏は一般的にキノコが少ないのですが、2017 年の夏は特に少雨で、印象に残るものは少しだけでした。7 月 20 日に千石荘で見つけたモエギアミアシイグチは、自然遊学館の記録では、2010 年 7 月 7 日の水間公園以来となりました。肉を傷つけると黒色に変わるのが特徴です（図 3）。

図 3. モエギアミアシイグチ
（貝塚市千石荘、2017 年 7 月 20 日）
***Retiboletus nigerrimus*　イグチ科**

秋はキノコのシーズンです。紹介するキノコも多めです。和泉葛城山の山頂付近では、毎年のように、落ちたブナの実から生えるウスキブナノミタケが現れます（本誌 70 号参照）。細い柄をたどって地中にあるブナの実まで掘り出すのは、少々骨折りです。10 月 5 日には採集できました（図 4、

左側にブナの実)。最初に述べたブナノホソツクシタケ、ウスキブナノミタケ、およびブナの幹に生えるツキヨタケはいずれも、『大阪府レッドリスト 2014』において準絶滅危惧に指定されています。それらが依存するブナ自体が、大阪府では希少というのが選定理由だと思います。

図 4. ウスキブナノミタケ
(和泉葛城山山頂付近、2017 年 10 月 5 日)
Mycena luteopallens **クヌギタケ科**

蕎原のある谷筋では、2 年前の 2015 年 9 月 28 日に天満和久さんによってルリハツタケが発見されました（同リスト、絶滅危惧Ⅱ類)。くすんだ青色と傘の環紋が特徴です。2016 年は確認できずに終わりましたが、2017 年は 30 本以上確認できました(図 5、9 月 28 日)。ベニタケ科なのに青色なのは、アカトンボの仲間なのに青色のナニワトンボを思い出させます。偶然にも絶滅危惧Ⅱ類というのも同じです。話が逸れてしまいました。その場所では、11 月 9 日にカノシタ（図 6）やキイロニカワタケ（図 7）といったキノコも確認されました。カノシタは傘の下面から針のような突起（子実層托）が多数垂れ下がっているのが特徴です。

図 5. ルリハツタケ
(貝塚市蕎原、2017 年 9 月 28 日)
Lactarius subindigo **ベニタケ科**

図 6. カノシタ
(貝塚市蕎原、2017 年 11 月 9 日)
Hydnum repandum **ハリタケ科**

図 7. キイロニカワタケ
(貝塚市蕎原、2017 年 11 月 9 日)
Tremella iduensis **シロキクラゲ科**
コジイの倒木から生えていました。

千石荘では、入口のケヤキの広場から切通しの途中までウッドチップが蒔かれ、2016 年はサンコタケが多数生えました。

2017 年はサンコタケが少なくなったのに対して、スッポンタケとイカタケを新たに確認することになりました。スッポンタケは 10 月 31 日に幼菌（いわゆる卵）を多数確認し（図 8）、その際に柄を伸ばした 3 本を見つけることができました（図 9）。英名の stinkhorn は、臭い角という意味です。学名の *Phallus impudicum* の意味を知りたい方は、ネットで検索してください。

図 8. スッポンタケの幼菌
（貝塚市千石荘、2017 年 10 月 31 日）
***Phallus impudicus*　スッポンタケ科**

図 9. スッポンタケ
（貝塚市千石荘、2017 年 10 月 31 日）

11 月 10 日の千石荘講座に参加の佐々木仁さんが見つけたイカタケは珍しいキノコで、これまで自然遊学館の記録にはなく、『大阪府レッドリスト 2014』において絶滅危惧Ⅱ類に指定されています（図 10）。写真は 12 腕ですが、本数には変異があるようです。以上、ウッドチップから生えた 3 種のキノコは、いずれもグレバという胞子塊の部分が悪臭を放ちます。これはハエなどの昆虫を呼び寄せて、それらの飛翔によって胞子を分散させるためだと考えられています。

図 10. イカタケ
（貝塚市千石荘、2017 年 11 月 10 日）
***Lysurus arachnoideus*　スッポンタケ科**

また、ウッドチップからではないですが、キツネノタイマツ（図 11）とスジオチバタケ（図 12）も印象深いキノコです。キツネノタイマツも佐々木仁さんが見つけたものです。スッポンタケと同属で、グレバが悪臭を放ちます。スジオチバタケは、キノコ自体というよりは、せんごくの杜の案内をしていたスタッフの湯浅幸子さんがオオスズメバチの襲撃を受けて逃げている時に見つけたことが印象に残りました。眼鏡にカチンとぶつかってきたハチもいたそうですが、そんな中で、自然遊学館に記録がなかったキノコを見つけてくれました。

図 11. キツネノタイマツ
（貝塚市千石荘、2017 年 11 月 10 日）
***Phallus rugulosus*　スッポンタケ科**

図 12. スジオチバタケ
（貝塚市千石荘、2017 年 10 月 25 日）
***Marasmius purpureostriatus*　ホウライタケ科**

秋の最後になりますが、二色の浜のキノコを紹介します。晩秋のクロマツ林にシメジが出ます。傘の表面は少しささくれ立ったフェルト状です。11 月 18 日に行った時には、盛時を過ぎていました（図 13）。場所から言えばハマシメジなのかもしれません。でも、幼菌の膜の有無を確認していないので、それに酷似したクマシメジの可能性もあります。

図 13. ハマシメジかクマシメジ
（貝塚市二色の浜、2017 年 11 月 18 日）
***Tricholoma* sp.　キシメジ科**

冬がないまま終わるのは気が引けるので、アカマツの落枝にびっしりと張り付くように生えていたヒメシワタケを紹介します。橙色をしていて、迷路のような模様が特徴です。とは言え、2 年前には 10 月に見たので、冬だけのキノコではありません。英語で winter mushroom と言えば、エノキタケのことを指し、この冬は千石荘で 12 月 5 日に確認しました。

図 14. ヒメシワタケ
（和泉葛城山山頂付近、2017 年 12 月 7 日）
***Leucogyrophana mollusca*　ヒロハアンズタケ科**

昆虫調査の際にとか、思い出したようにちょっと出かけて、という感じでしか記録を取れていませんが、いろいろな形をしたキノコがひっそりと（？）生えていること

を紹介しました。

参考文献・サイト

『大阪府レッドリスト 2014』(大阪府、2014).
大菌輪－全菌類の横断検索. http://
mycoscounter.coolblog.jp/daikinrin/

(岩崎 拓)

行事レポート

海藻おしば&ウミホタル

日時:2017 年 10 月 1 日(日)14:00～20:00
場所:せんなん里海公園(しおさい楽習館)
参加者:26 人
日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

貸し切りバスで岬町にあるせんなん里海公園に移動し、海藻おしば作りとウミホタル観察を行いました。

せんなん里海公園内に 2017 年 2 月にオープンしたばかりの「しおさい楽習館」という施設を利用させて頂き、海藻おしばくらぶの河原講師、前田講師のお二方から海藻おしば作りを教えて頂きました(図 1)。海のすぐそばのロケーションにある施設での海藻のおしば作りは、なんだか臨場感のようなものが感じられました。海で育った海藻を使って作品作りをしているんだという実感が伴います。参加者は思い思いのイメージで海藻を置いていき、作品を制作しました(図 2)。

図 1. しおさい楽習館で海藻おしば作り

図 2. 参加者の作った海藻おしば作品例

続いて、ウミホタルという甲殻類について、スライドでのお話を聞き学習しました。その後、軽い軽食をはさんで夕暮れになると、ウミホタルを捕獲するトラップを砂浜に仕掛けました(図 3)。半時間ほど待つ間に公園内の植栽から聞こえるたくさんの鳴く虫の声を探索し、天満講師より虫の名前を教わりました。

トラップを引き上げてみると、例年のようにたくさんのウミホタルが採れているというわけではありませんでしたが、「これがウミホタルか」と確認することはできました。海水と共にウミホタルを注いだグラスに、刺激となる海水氷を入れてウミホタルの放つ青白い光を観察しました。

図 3.　砂浜からトラップを仕掛ける

（山田 浩二）

虫と星の観察会

日時:2017 年 10 月 14 日(土)18:00～20:00
場所：貝塚市立善兵衛ランド
参加者：22 人

「リッリッリッリッリ♪」「リー・リー・リー♪」「キン　キン　キン♪」「コロコロリー♪」「チン　チロリン♪」

これらは、鳴く虫を紹介した図鑑などで表現されているコオロギなど鳴く虫の鳴き方です。これだけで、どの虫の鳴き声か分かりますか？答えは、順番にハラオカメコオロギ、ツヅレサセコオロギ、カネタタキ、エンマコオロギ、マツムシです。

しかし、本物の鳴き声を聴くとツヅレサセコオロギは「リー・リー・リー」というより「ギー・ギー・ギー」と聞こえたり、カネタタキは「ヒッ・ヒッ・ヒッ」と表現した方がいいという人もいます。

さらに、鳴く虫たちも常に同じ鳴き方をしているわけではありません。ほとんどの種はオスだけが音を出すことができるのですが、メスが近くにいる時や遠くにいる時では違う鳴き方をしたり、他のライバルのオスがいる時は威嚇の音を出したりと、実は何パターンかの鳴き方をします。

つまり、本物の鳴き方を聞かないと分からない！図鑑だけで鳴く虫を聞き分けようとするのは無謀なのです。

今年の「虫と星の観察会」には、本物の鳴き声を聞きに来てくれた参加者が 22 人も来てくださいました。 当日は厚い雲が空を覆う天気でしたので、残念ながら星は見れませんでしたが、虫は元気に鳴いてくれていました。

観察会は、みんなで虫とりをすることから始まりました。善兵衛ランドの周辺では、マツムシ、アオマツムシ、エンマコオロギ、シバスズの鳴き声が綺麗に響いていました。

『「チン チロリン」と鳴いているマツムシを採ろう』という自然遊学館スタッフ岩崎の掛け声をきっかけに子供たちが散らばり、「こっちから聞こえる」「ここから聞こえる」と鳴き声をたよりに虫を追いかけました。

＜みんなで採集した記録＞

バッタ目

コオロギ科

エンマコオロギ	姿＋♪鳴き声
ツヅレサセコオロギ	姿

ヒバリモドキ科

シバスズ	姿＋♪鳴き声
マダラスズ	姿

マツムシ科

マツムシ	姿＋♪鳴き声
アオマツムシ	姿＋♪鳴き声

カネタタキ科

カネタタキ	姿

キリギリス科

ホシササキリ	姿

ツユムシ科

サトクダマキモドキ	姿

その他、（鳴く虫とはいえませんが）大きなショウリョウバッタを捕まえた子もいました。子どもたちにとっては大きな収穫です。マツムシもみんなで 10 匹以上採りましたよ。

室内に入ってからは、岩崎から鳴く虫の説明があり、スライドを使っていろんな種類の鳴き方を聞きました。 その後には、大阪府みどり企画室の方から「生物多様性」についてのお話があり、続いて善兵衛ランド森館長より秋の星座について教えて頂きました。

鳴く虫については、参加者のみなさんも全ての種類の鳴き声を覚えることはできなかったでしょう。鳴き声を覚えたいという方は、ぜひコオロギ達を自分で飼育してみてください。コオロギの飼育はそれほど難しくありませんし、エサも家ででる生ごみで充分な種がほとんどです。

初心者の方にはエンマコオロギやツヅレサセコオロギなど身近に採れる種がオススメです！

当日みんなで採ったコオロギたちは館内で素敵に展示させて頂きました。

（澤田 智子）

親子海釣り体験 in 岡田浦

日時：2017 年 11 月 5 日（日）9：00～17:00

場所：泉南市岡田浦漁港

参加者：32 人

日本財団「海の学びミュージアムサポート」助成事業

今年度 4 回目となる貸し切りバス利用の市外行事で、泉南市の岡田浦漁港を訪れました。当日は「おさかなフェスティバル 2017in 岡田浦漁港」が現地で開催されており、多くの人出で賑わっていました（図 1）。毎週日曜日に行われている朝市のほかに、音楽ステージや消防ポンプ車が見られたり、海の生きもの達とのふれあい体験がありました。

午前中は参加者それぞれが朝市の様子、フェスティバルの催しを見学しました。な

かでも、漁で捕れた魚介類を当館の観察会でもお世話になっている鍋島さんが解説するコーナーや、魚のセリ市を体験するコーナーは、海の生きものと漁業の視点で学ぶ興味深いものでした。

図 1. 泉南岡田浦漁港の朝市

図 2. 朝市で売られている魚
（手前に売られている「つばす」はぶりの幼魚で、関西では成長に伴ってツバス→ハマチ→メジロ→ブリと呼び名が変わる出世魚です）

午後からは漁港の岸壁で、海釣り体験を行いました。フィッシングショップＴポート貝塚店の食野店長をはじめスタッフの方が講師として駆けつけて下さり、初めて釣りを行う方を対象としたサビキ釣りを教えて頂きました（図 3)。

釣り始めはなかなか釣れませんでしたが、後半からアジの群れがヒットし始め、次々に釣り上げていました。釣られた魚は、マアジ、マイワシ、ウルメイワシ、ムラソイ、メバル類、ヒイラギの 6 種類でした。みなさん釣り上げた魚は今晩のおかずにするとのことで持ち帰られました。

図 3. 漁港でのサビキ釣り

（山田 浩二）

館長コーナー

海の学びミュージアムサポート事業 平成 29 年度報告 3

今回の館長コーナーは 29 年度の海の学びミュージアムサポート事業での参加者アンケートの報告と来年度の行事に関するお知らせをさせていただきます。

当館では船の科学館の支援による海の学びミュージアムサポート事業を 3 年間続けてきました。

掲げたテーマは以下のようになります。

『大阪湾を知ろう。』

『大阪湾を豊かな海にしよう。そのために私たちにできることは？何をすればいいか考えよう』

一年目はウミガメに焦点を当てて取り組みました。2 年目はスナメリでした。そして、3 年目。大阪湾の生きものと繋がる山と川に目を向けていきました。

活動の詳細はすでにお知らせしていますので、ここでは省略させていただきますが、来年度にはこれら 3 年分の活動報告展を行うつもりです。ご期待ください。

さて、ここから本題に入ります。

1 回の行事には、バスを利用した行事は毎回 20 名（定員 20 名でした)、利用しない行事には 40 名から 60 名の参加がありました。

参加いただいた方には毎回アンケートに答えていただきました。

家族に一つのアンケートでしたので、代表して保護者の方の声、参加したお子様の声などそれぞれの立場での答えが返ってきました。

その結果を以下にお示しします。

行事全ての紹介は紙面の都合上難しいことから、幾つかの行事に絞って紹介します。また回答の記載内容は以下の設問に対する答えです。

設問 2

満足できたことがあればお書きください（自由記述、空欄で未記入は省略)。

2017 年 7 月 9 日（日）
二色の浜アマモ観察
40 人　14 家族　スタッフ 11 人

普段できない体験ができた
シュノーケリング
色々な魚がみれた
シュノーケリングで海の生きものをいろいろ見れたこと
色々な生物が発見できたこと
子どもと一緒にシュノーケリングで観察できたこと
初めて海の中の様子をシュノーケリングで体験することが出来ました
アマモの観察を初めてできた
楽しい
生き物の名前を説明してくれたこと。去年見られなかった種類の生きものが見られたこと
生き物がたくさん捕れたこと

2017 年 7 月 25 日(火)
水産技術センター見学と南海せとうちジオガーデン観察
20 人　9 家族　スタッフ 8 人（講師含む）
現地講師 1 人

ヒトデ、ナマコ、ウニなどに触れたこと
子どもにわかりやすく、興味を持てるように話してくださったので良かったです
水産技術センターというところがあることも知らなかったのですが、今日の見学を通して、私たちの身近な海を守って下さっていることをとってもわかりやすく説明して頂けたので、とても勉強になりました。子どもたちもとても充実した 1 日を過ごせたと思います。磯での採集体験、とても楽しかったです。
いろいろなかいや生きものを知れてよかった
水産技術センターのバックヤードや住吉

崎の磯遊びなど普段行けないところにも行けて大満足でした。スタッフの方も軍手や網など用意していただいてよかったです。生きものの解説も分かりやすかったです。
本格的な磯観察は初めてのことでしたので大満足でした。二色の浜（人工浜）とは大違いで迫力満点でした。
水産技術センターの見学
いっぱい魚などがいたこと

2017 年 8 月 20 日（日）
番所崎磯観察と京都大学白浜水族館見学
21 人　8 家族　スタッフ 6 人

白浜で沢山の貝を見たり捕ったりできた。今まで興味がない生物の名前や生態を知ることが出来た
貝と白浜生物のガイドブックを今後活用したいと思う。(毎年今回の水族館近くに海水浴にきているので)
砂浜や川に行ったりするけど磯はあんまり行かないし、じっくり貝を見ることが無かったので大変面白かった。
いろいろな生きものを見つけることが出来た
和歌山の豊かな海を感じることができました
でかウニとか貝とかいっぱいいて「海ってすごいんやな―。」って思ってわくわくしました
海の生きものをとれることができてたのしかった。
海のことを知れてよかった

2017 年 10 月 1 日（日）
海藻おしば体験とウミホタル観察
17 人　7 家族　スタッフ 7 人（講師含む）
現地講師 2 人

海藻で考えて絵葉書を作ったこと。餌を入れた仕掛けでウミホタルがとれた
ウミホタルがたくさんとれてきれいに光っているのが見れたこと。ウミホタルを初めて見たこと。海藻おしばが楽しかった
生まれて初めてウミホタルを見ることが出来感激しました
海藻のことについて詳しく教えてもらったり虫のことも知らないことばかりで勉強になった。ウミホタルが見れてよかった
全て楽しく過ごせました
ウミホタルを身近に感じれて楽しい体験でした
海藻おしばというのがあるのが知れてよかったです。海をよごさない、にごさないを知りました。ウミホタルの生態について知れた、とれた、見れた!!

アマモ観察会の様子

水産技術センター見学の様子

京都大学白浜水族館見学の様子

南海せとうちジオガーデン観察の様子

海藻おしばの初めの紹介

番所崎の観察の様子

ウミホタル採集器の投入の様子

参加者のアンケート記載から分かること。参加者は行事参加に満足感を持ち、海の環境について興味・関心を高めた、という内容のものが多かったことがわかりました。他にも沢山の行事がありましたが、

代表的なものを幾つか紹介しました。

アンケートの設問には
〇活動は満足できましたか
〇今後このような行事があれば参加しますか？
の項目で選択形式のアンケートもありました。

最後にこの２項目についての全体集計結果をお知らせします。

活動は満足できましたか

満足	89.5%
ふつう	9.2%
不満足	1.3%

今後このような行事があれば参加しますか？

参加する	92.1%
分からない	7.9%
参加しない	0.0%

当館は、毎年いくつもの行事を行い、市の自然を多くの皆様に紹介し、自然を守ろうという人々の育成と啓発に努めています。また、大阪湾全体を見つめながら豊かな海を目指すにはどうしたらよいかを考えています。今後とも当館の活動に多くの方々が参加していただき、多くの感想や意見を寄せていただきたいと思います。来年はさらに視点を変えていろいろな行事を計画し実施してまいります。ご声援・ご協力よろしくお願いします。

（高橋 寛幸）

いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの 13

昨年も色々なものを寄贈していただきました。珍しい生きものだと、ニホンイシガメやニホンウナギなどをもってきていただきました。今回紹介する生きものは、ニホンウナギです。

ニホンウナギ

ニホンウナギは、北海道以南、朝鮮半島、中国、台湾などに分布。腹ヒレを持たず、背ヒレから尾ヒレまで繋がっています。体色は背面が暗褐色で腹面は白色、全長 60cm になります。河口から上流にかけて生息していて、一部は淡水域に入らずに沿岸域に止まることもあります。野生のニホンウナギは、水生昆虫、甲殻類、魚類などを食べています。当館では、大きいウナギには、カニやエビをあげています。小さいウナギには、赤虫をあげています。

ミツユビアンヒューマ

よく、「ウナギや、ウナギがいてた！」といってくれる人もいて、すごく嬉しい事ですが･･･この生きものは、ウナギと違うんだよ…。一度、遊学館だより（74 号）で紹介しました。ウナギとすごくそっくりなのですが、イモリの仲間で小さな手足があり、小さな手の指先が 3 つに分かれていることから、ミツユビアンフューマと呼ばれています。

参考文献

新野大　(2004)『大阪湾の生きもの図鑑』
東方出版. 206pp.
鹿児島の自然を記録する会（2002）
『川の生きもの図鑑　鹿児島の水辺から』
南方出版. 386pp.

（鈴子 勝也）

調査速報

貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査　7

今年も二色の浜や近木川河口を見ているとカモの仲間が少しずつ増えていくので、「1 月になったら、鳥の数どうなっていくのかな…」と感じつつ調査を行っています。今回は 9 月～12 月の鳥調査の報告です。

月 1 回の調査予定ですが、今回の調査では、調査地を間違い、近木川河口 4 回、二色の浜 2 回になってしまいました。申し訳ありません。

二色の浜公園周辺において2017年11月～12月に観察された鳥類

目	科	種	11月1日 13:35 鈴子	12月20日 13:40 鈴子
カモ目	カモ科	ヒドリガモ	○	○
		カルガモ	○	○
		オナガガモ		○
		コガモ		○
		ホシハジロ		○
		スズガモ	○	
ハト目	ハト科	キジバト	○	○
		ドバト	○	○
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○
ペリカン目	サギ科	アオサギ	○	○
		ダイサギ	○	○
		コサギ	○	○
チドリ目	シギ科	イソシギ		○
	カモメ科	ユリカモメ		○
		ウミネコ	○	○
		セグロカモメ	○	
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	○	○
	タカ科	トビ	○	○
スズメ目	モズ科	モズ		○
	カラス科	ハシボソガラス	○	○
		ハシブトガラス	○	
	ヒバリ科	ヒバリ	○	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○
	メジロ科	メジロ	○	
	ヨシキリ科	オオヨシキリ		○
	ムクドリ科	ムクドリ	○	○
	ヒタキ科	ジョウビタキ	○	○
		イソヒヨドリ	○	○
	スズメ科	スズメ		○
	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○
		セグロセキレイ	○	
	アトリ科	カワラヒワ	○	○
		種数	24	27

二色の浜公園 2017 年 11 月 1 日 ウミネコ

近木川河口周辺において2017年10月～12月に観察された鳥類

目	科	種	10月11日 13:20 鈴子	10月25日 13:25 鈴子 鍛冶	11月15日 13:30 鈴子	12月6日 13:30 鈴子
カモ目	カモ科	ヒドリガモ		○	○	○
		カルガモ	○	○	○	○
		オナガガモ				○
		コガモ	○	○		○
		ホシハジロ			○	○
		スズガモ			○	○
カイツブリ目	カイツブリ科	カンムリカイツブリ				○
		ハジロカイツブリ				○
ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○	○
		ドバト	○	○		○
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	○
ペリカン目	サギ科	ゴイサギ	○	○		
		アオサギ	○	○	○	○
		ダイサギ	○	○	○	○
		コサギ	○	○	○	○
ツル目	クイナ科	オオバン	○	○	○	○
チドリ目	シギ科	イソシギ		○		○
	カモメ科	ユリカモメ		○	○	○
		ウミネコ	○	○	○	○
		セグロカモメ			○	
タカ目	タカ科	トビ	○	○		○
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	○			○
スズメ目	モズ科	モズ	○	○		
	カラス科	ハシボソガラス	○	○	○	○
		ハシブトガラス	○			
		シジュウカラ	○			
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○
	メジロ科	メジロ				○
	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○
		ツグミ				○
		ジョウビタキ			○	○
	ヒタキ科	イソヒヨドリ	○	○	○	○
	スズメ科	スズメ	○	○		
	セキレイ科	キセキレイ		○		
		ハクセキレイ	○	○	○	○
		セグロセキレイ	○	○	○	
	アトリ科	カワラヒワ	○			○
	ホオジロ科	アオジ			○	
		種数	24	24	21	30

近木川河口周辺　2017年10月11日　ゴイサギ幼鳥

（鈴子 勝也）

実習生コーナー

・貝塚市立第二中学校　2年生　男子1名
10月25日～27日

中学生の職場体験としては長丁場の3日間、元気よく実習して頂きました。主に生きものの世話でしたが、小学生の団体応対では、近木川の河口でカニつり応援も行いました。

・八洲学園大学生涯学習学部　4年生 女子1名
11月1日～8日

学芸員実習として1週間、館の活動を経験しました。主に展示についての実習で、寄贈された貝のコレクションの種名を調べ、キャプションを作成し展示棚に並べる一連の作業を地道に行ってくれました。「親子海釣り体験」の行事では、一番にメバルを釣り上げました。

寄贈標本

＜鳥類＞

◆食野俊男さんより
スズメ　死体 1 点
貝塚市南町　2017 年 9 月 23 日採集

＜爬虫類＞

◆徳原一浩さんより
ニホンイシガメ　生体 1 点
岸和田市岡山町　2017 年 8 月 13 日採集
◆山下憲一郎、西岡諒さんより
クサガメ　生体 1 点
貝塚市脇浜　2017 年 9 月 15 日採集

＜魚類＞

◆土江昭好さんより
ニホンウナギ　生体 1 点
淀川　2017 年 6 月末採集
◆木下由貴さんより
ドジョウ　生体 1 点
堺市東区　2017 年 8 月 11 日採集
◆寺田拓真さんより
セグロチョウチョウウオ　生体 1 点
貝塚市二色の浜　2017 年 9 月 8 日採集
◆食野俊男さんより
ダツ　釣り上げ 1 点
貝塚市近木川河口
2017 年 12 月 4 日採集

ダツ　（全長 91 ㎝）

◆常道武士さんより
タウナギ　生体 1 点
貝塚市橋本　2017 年 12 月 9 日採集
ウキゴリ　生体 1 点
フナ属　生体 1 点
モツゴ　生体 2 点
タモロコ　生体 25 点
貝塚市橋本　2017 年 12 月 16 日採集

＜軟体動物＞

◆千地芳樹さんより
カワニナ　生体 2 点
阪南市山中渓　2017 年 11 月 1 日採集
◆川口博さんより
タイラギ　殻 1 点
貝塚市二色の浜　2017 年 11 月 17 日採集

＜棘皮動物＞

◆川口博さんより
トゲモミジガイ　死体 2 点
貝塚市二色の浜　2017 年 10 月 28 日採集

トゲモミジガイ

＜甲殻類＞

◆増井真一さんより
オオヒライソガニ　生体 2 点
貝塚人工島　2017 年 9 月 6 日採集
◆西出康介さんより
ゼンマイヤドカリ　生体 2 点
テナガコブシ　生体 1 点
泉佐野青空市場 2017 年 10 月 5 日譲受

◆常道武士さんより
スジエビ　生体 1 点
モクズガニ　生体 1 点
貝塚市橋本　2017 年 12 月 16 日採集

＜昆虫＞

◆森永隆晴さんより
クビキリギス（紅色型）　幼虫 1 点
オンブバッタ　成虫 1 点
貝塚市澤　2017 年 9 月 14 日採集

◆阿部百花さんより
トビイロスズメ　幼虫 1 点
貝塚市脇浜　2017 年 10 月 9 日採集

◆矢野博好さんより
ナミアゲハ　成虫 1 点
貝塚市脇浜　2017 年 10 月初旬採集

◆三浦基さんより
クスサン　繭殻 46 点
貝塚市大川　2017 年 10 月 11 日採集

◆佐々木仁さんより
オオハリアリ　成虫 1 点
貝塚市千石荘　2017 年 10 月 13 日採集

◆西出康介さんより
ハマオモトヨトウ　幼虫 7 点
貝塚市脇浜　2017 年 10 月 21 日採集
ハマオモトヨトウ　幼虫 1 点
貝塚市脇浜　2017 年 10 月 23 日採集
ヒメジュウジナガカメムシ　成虫 1 点
貝塚市脇浜　2017 年 10 月 26 日採集

◆常道武士さんより
クビキリギス（紅色型）　成虫 1 点
貝塚市澤　2017 年 10 月 27 日採集
ムーアシロホシテントウ　成虫 1 点
貝塚市澤　2017 年 12 月 5 日採集

◆千地芳樹さんより
コシボソヤンマ　幼虫 1 点
コオニヤンマ　幼虫 1 点
阪南市山中渓　2017 年 11 月 1 日採集

◆自然遊学館わくわくクラブより
マユタテアカネ　成虫 1 点
オオカマキリ　卵嚢 1 点
貝塚市馬場　2017 年 11 月 23 日採集

＜クモ＞

◆佐々木仁さんより
コゲチャオニグモ　亜成体 1 点
貝塚市千石荘　2017 年 10 月 13 日採集

＜寄贈写真＞

◆川口博さんより
アカウミガメ　漂着死体　2 枚
貝塚市二色の浜　2017 年 9 月 5 日撮影

◆西出龍生さんより
オイカワ　3 枚
貝塚市堤　2017 年 9 月 10 日撮影

◆覚野良子さんより
トラノオジソ　1 枚
貝塚市木積　2017 年 9 月 23 日撮影

トラノオジソ
（貝塚市木積 2017 年 9 月 23 日 覚野良子さん撮影）

アケボノシュスラン　1枚
エゴマ　1枚
アケボノソウ　1枚
トラノオジソ　1枚
マツグミ　2枚
（2014年8月13日のマツグミの画像3枚も）
和泉葛城山　2017年9月30日撮影

マツグミ
（和泉葛城山 2017年9月30日 覚野良子さん撮影）

ユキザサ　2枚
チゴユリ　1枚
コシアブラ　1枚
ヤマホロシ　4枚
ミカエリソウ　4枚
アブラチャン　1枚
クワガタソウ　2枚
ツルリンドウ　1枚
コウヤボウキ　2枚
ノササゲ　1枚
センブリ　1枚
ハナオチバタケ（褐色型）3枚
（ハナオチバタケの同定は、吉田元三郎さん）
　ほか、15枚
和泉葛城山　2017年10月9日撮影

ヤマホロシ
（和泉葛城山 2017年10月9日 覚野良子さん撮影）

アキノキリンソウ　1枚
イナカギク　1枚
貝塚市大川　2017年10月14日撮影
アケボノソウ　2枚
ヌマダイコン属の一種　12枚
ヤマハッカ　2枚
　ほか、6枚
貝塚市秬谷　2017年10月14日撮影
◆森本静子さんより
マルハラダニ属の一種　2枚
貝塚市馬場　2017年11月23日撮影

マルハラダニ属の一種
（貝塚市馬場 2017年11月23日 森本静子さん撮影）

＜展示用＞
◆宮津景子さんより
コオロギ類　生体3
貝塚市麻生中　2017年9月30日採集

◆溝端孝史さんより
エンマコオロギ　生体2点（2♂）
貝塚市小瀬　2017年10月7日採集

スタッフ日誌

10月21日、台風21号の接近に伴う大雨で、自然生態園「トンボの池」の水位が水深計の最大目盛の70㎝を越えました。9月にはそれまでの半年間以上も続いた少雨がたたって第1、第2タンクとも空になって補水できなくなり、水深5㎝以下を2度も記録しました。トンボの池の20年間の歴史の中で、いずれも経験がなかったことです（池干し時の低水位以外）。それが2ヶ月の間に起ったことは、最近の気候変動を象徴するような出来事だと思います。（岩）

10月27日、当館と同じ「市民の森公園」内にあるシェルシアター（野外ステージ）で、初の試みになる映画上映会「ぷらねたシネマ」が行われました。二枚貝（イタヤガイ？）の殻の形をした建物を直接スクリーンに使用するという大胆なものでしたが、迫力ある映像で結構良く見えていました。二色の街の活性化を図る上で、いいアイデアだなぁと思いました。（山）

11月6日、当館の活動を初期の頃から様々な面でご支援くださった岸和田市在住の濱谷巌先生がご逝去されました。ウミウシの分類学者として広く名の知れた方でしたが、お若い頃は貝塚市にお住まいになられておられ、泉州の海の生物や、和泉葛城山の自然について造詣が深く、お教え頂いたことは数えきれません。ご厚情に深謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。（山）

12月5日、「貝塚市の自然」という再生リストを youtube 上にアップしてみました。近木川のアユや河口の鳥、二色の浜のアマモ場、前号で紹介したカタオカハエトリや近木川上流のムカシトンボ幼虫、館内で飼育しているアオダイショウ、オヤビッチャ、ヒナハゼ、チャイロマルハタなど、貝塚市の自然や自然遊学館の展示を紹介する動画が30本ほど入っています。これからもアップしていきますので、よろしくお願いします。（岩）

12月20日、大阪府立佐野高校の生物準備室に保管している標本群の寄贈の話を頂き、打ち合わせに見に行ってきました。伝統校だけあって、採集された海岸生物等の標本はかなり昔のものが多いこともあり、貼ってあるラベルに書かれた採集場所・採集日等の文字が消えてしまっているのが惜しかったです。（山）

＊ 自然遊学館だよりのバックナンバーは、
下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2018　冬号（No.86）
貝塚市立自然遊学館
〒597-0091
大阪府貝塚市二色3丁目26－1
Tel.　072（431）8457
Fax.　072（431）8458
E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp
http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/

発行日　2018.2.5
この小冊子は庁内印刷で作成しています。